2026 年 9 月 16 日作成
第 1.0 版

当院で診療を受けられた患者さん・ご家族様へ
臨床研究へのご協力のお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究では、普段の診療で得られた情報を使用させていただくものです。この研究のために、新たに診察や検査などを行うことはありません。以下の情報を研究に用いられたくないとお考えの患者さんまたはご家族の方は、遠慮なくお申し出ください。お申し出いただいた患者さんの情報は使用いたしません。また、研究への参加にご協力いただけない場合でも、患者さんに不利益が生じることは一切ありません。お申し出の期限は 2027 年 4 月 1 日までです。期限までにお申し出いただいた場合は、その患者さんの情報を解析の対象から除外します。期限後にお申し出いただいた場合でも、以後の追加の解析等には使用しませんが、すでに解析・公表された結果については、個人を特定できない形でまとめられているため、取り除くことができない場合があります。

少子化時代における新生児外科診療体制の現状と課題

― 症例動向と術者構成からみた次世代育成に関する後方視的検討 ―

対象となる患者さん

2015年1月～2025年12月の間に当科(消化器・総合外科)において新生児外科手術を施行した患者さん

研究責任者

奈良県立医科大学附属病院　消化器・総合外科　洲尾　昌伍

研究の目的と意義

近年、日本では生まれてくる赤ちゃんの数が減少しており、生まれてすぐに外科手術が必要となる赤ちゃん(新生児)の数も、今後さらに少なくなっていくことが心配されています。手術を受ける赤ちゃんの数が少なくなると、医師が経験を積む機会も少なくなり、将来にわたって質の高い医療を提供し続けることが難しくなるおそれがあります。そこで私たちは、これまで当院で新生児の外科手術がどのように行われてきたか(手術件数の移り変わり、手術を担当した医師の状況など)を振り返り、今後も安心して質の高い医療を提供し

続けるために、どのような課題があるのか、若い医師をどのように育てていけばよいのかを明らかにしたいと考えています。

具体的には、2015 年から 2025 年までの 11 年間に当院で新生児の外科手術を受けられた患者さんについて、これまでの診療記録に残っている情報(ご病気の内容、手術の方法、手術を担当した医師、手術を受けた時の日齢や体重など)を確認し、手術件数の変化や、担当した医師の移り変わりなどを調べます。この研究のために、新たに診察や検査を行うことはなく、これまでに記録されている情報を確認するだけの研究です。この研究で得られた結果は、当院だけでなく、日本全国で新生児の外科診療にあたっている医療機関が、今後も安定した医療体制を維持していくための参考になると考えられます。研究の成果は、学会での発表や医学雑誌への論文掲載を通じて公表する予定です。

研究の方法

『使用する情報』に示す情報を対象の患者さんのカルテから収集し、少子化下における新生児外科の診療体制および次世代育成体制のあり方について考察します。

使用する情報

患者さんの診療情報として出生前診断の有無および診断名、手術時診断名、術式、鏡視下手術の有無、手術日齢、手術時体重、手術の緊急度(緊急/待機)、新生児搬送の有無、執刀医および助手、手術年

情報の管理責任者

奈良県立医科大学　学長

研究期間

研究機関長の実施許可日～2027 年 12 月 31 日

個人情報の取り扱い

対象となる患者さんの個人情報は厳重に管理し、利用する情報等からはお名前や住所等、個人を特定できる情報は削除し、研究番号に置き換えて使用します。また、研究成果を学会や学術誌等で公表する際も個人を特定する情報は公表しません。

お問合せ先

奈良県立医科大学附属病院　消化器・総合外科　洲尾　昌伍
住所：奈良県橿原市四条町 840 番地
電話：0744-22-3051
e-mail：surg-1@naramed-u.ac.jp